

ルバーブの休眠誘導に及ぼす温度と日長の影響*¹

成松 次郎*²

Influence of Temperature and Photoperiod on the Dormant Induction of Rhubarb (*Rheum rhabonticum* L.) .

Jiro NARIMATSU

緒 言

ルバーブ(*Rheum rhabonticum* L.)はタデ科に属する大型の多年性作物であり、神奈川県における年間の生育状況は次のとおりである。早春に根株からほう芽し、ほう芽後まもなく花茎の伸長(抽だい)が始まり、5月ごろに開花期を迎え、初夏に生長が最も盛んである。梅雨明け以降の夏は高温のため生長は衰える。秋になって草勢はやや持ち直すが、生長は緩慢であり、冬に向かって生長は止まり、12月中ごろに地上部は凍霜により枯れる。

本研究は、このような年間の生育相の中で、秋から冬にかけて生育が衰える現象、すなわち休眠誘導の気象条件、特に温度と日長条件を明らかにすることが目的である。そして、この条件を応用して休眠の操作を行えば、従来の露地栽培の4～6月の収穫期を拡大する新しい栽培方法の開発が期待される。

材料及び方法

1. 温度条件が休眠に及ぼす影響

1989年8月下旬に品種‘Myatt’s Victoria’の種子を12cmビニルポットに播種して育苗した。10月上旬に12号素焼鉢に移植し、実験終了までこの鉢で1株植えし、1区12～14株を栽培した。

*¹本報告の一部は平成5年度園芸学会秋季大会において発表した。

*²現神奈川県園芸試験場

1989年11月2日より1990年4月2日まで、最低温度5℃、10℃及び15℃の温室へ搬入した。その他の期間と対照区は屋外で栽培した。

調査は、ほう芽状況を1989年11月～1990年5月の各月中旬に観察した。

2. 日長条件が休眠に及ぼす影響

1990年9月上旬に同じ品種の種子を12cmビニルポットに播種して育苗し、11月14日にビニルハウスへ条間90cm、株間60cmの栽植距離で定植した。

長日区は、36株に対して電照用電球(100V60W)を地上1.6mに6灯配し、4～7時と16～20時に照明して16時間日長とした。電照期間は定植日より3月29日までで、照度は地表面において平均67 lxであった。

自然日長区は、長日区と同じハウスに44株栽培し、自然日長とした。なお、参考に露地での栽培を併せて行った。

調査は、全株を対象に、生長が進み葉柄長30cm以上に伸長した葉を2～3週間おきに収穫し、収穫本数と葉柄重を測定した。

3. 日長時間と短日処理が休眠に及ぼす影響

1991年8月下旬に同じ品種を播種して育苗し、11月20日に温室に定植した。栽植方法は条間90cm、株間60cmの2条植えとした。

日長処理法は、18株に対して電照用電球(100V60W)を地上1.6mに3灯配置した。この時の照度は地表面において平均37 lxであった。日長時間を自然日長、13時